

田中隆吉 たなか たかきち 舊陸軍軍人。明治二十六年七月九日島根縣生れ、昭和四十七年六月五日歿（一九九二—一九七二）。陸軍大學校卒。大正十一年參謀本部に入り、昭和二年から支那研究員として北京、張家口、上海に駐在。十年關東軍參謀となり、統遠事件、張鼓峰事件等々起す。十五年少將。第一軍參謀長、兵務局長、羅南要塞司令官歴任。戦後東京裁判の檢事側證人として出廷したことで知られる。

著書に『日本軍閥暗闘史』（昭和二十二年十月一日静和堂書店）、『敗因と衝く』（改訂増補・昭和二十二年八月一日新風社。復刊『敗因と衝く』軍閥重横の真相）と二十二年七月十日中央公論社（『中公文庫』）、『裁かれる歴史―敗戦秘話』（昭和二十二年十月五日新風社）等。

